

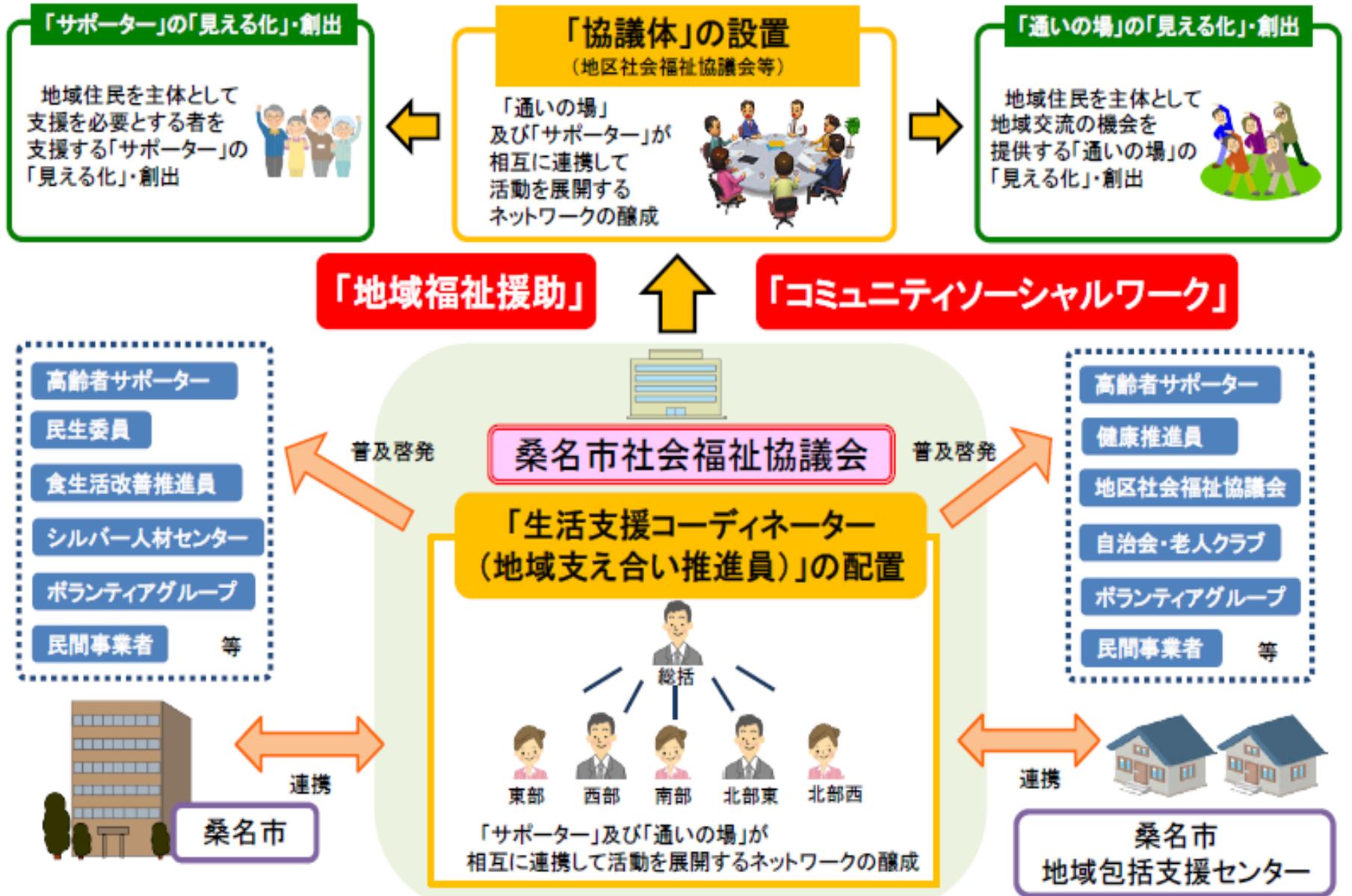
「福祉のまちづくり」とは

益世地区支え合い勉強会
平成27年7月6日（月）

桑名市社会福祉協議会
森 輝

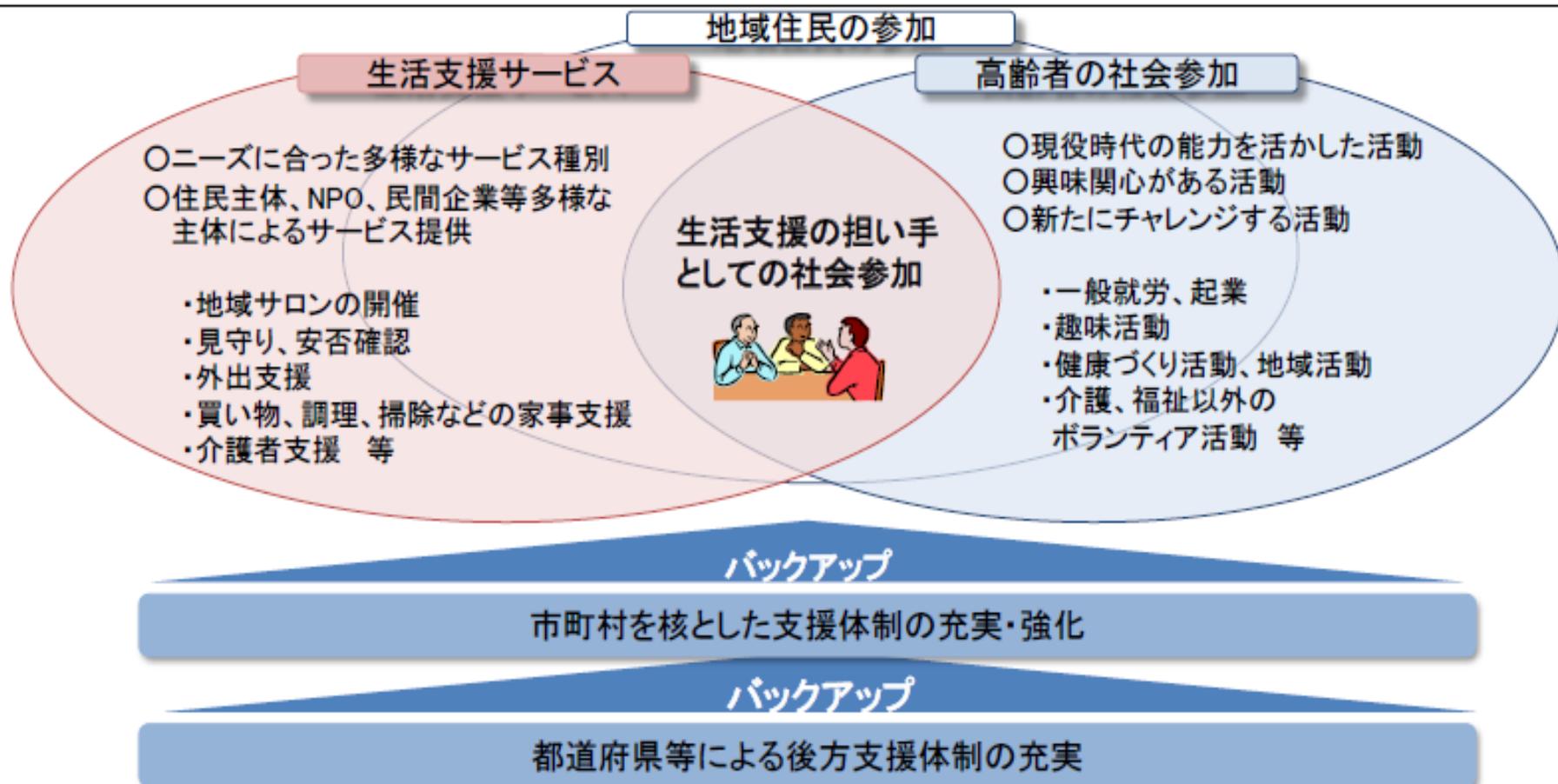


桑名市の「生活支援体制整備事業」



生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加

- 単身世帯等が増加し、支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、生活支援の必要性が増加。ボランティア、NPO、民間企業、協同組合等の多様な主体が生活支援サービスを提供することが必要。
- 高齢者の介護予防が求められているが、社会参加・社会的役割を持つことが生きがいや介護予防につながる。
- 多様な生活支援サービスが利用できるような地域づくりを市町村が支援することについて、制度的な位置づけの強化を図る。
具体的には、生活支援サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)」の配置などについて、介護保険法の地域支援事業に位置づける。



なぜ地域が？

- 「共助」「公助」では対応できないことがある
- 地域によって生活課題は違う
- 地域住民は地域の課題から逃れることはできない
- 地域のことは地域住民が一番把握している
- 地域の住民同士のつながりをつくり、支え合いによる解決をめざす



地域住民の参加



地域のつながり



地域での支え合い体制



誰もが住みやすい益生地区へ

ふだんの
くらしの
しあわせ





みんなで進める福祉の街づくり